

大阪府保育士会だより

ほほえみ

平成16年8月1日

第67号

大阪府社会福祉協議会
保育部会・保育士会

大阪市中央区中寺1-1-54
TEL 06-6762-9001

お囃子の音が きこえるよ!!



=親子で地域を
ねりあるき=

毎年、地域の秋祭りの地車曳きに参加しています。この時期、地車のお囃子がきこえてくると、子どもたちはわくわく・ドキドキ!!

(北摂・河内ブロック)

地域ととも 心れあい大切に



地域の方々とお揃いのはつぴを着て、元気な掛け声とともに町内をねり歩き、大人も子どもも一体となって楽しい一日を過ごしています。

大人の優しさに触れ、伝統を感じながら、最後まで力を合わせてひっぱるといふ喜びが、子どもたちをひき回し成長させてくれます。

東大阪市

さわらび保育園

泥んこあそび わあ〜い!!



当園では、毎月1回「おひさま教室」という地域活動を行っています。6月は約30組の親子が集まり、園庭を使って泥んこあそびをしました。慣れない土や水、泥を前に半ベソをかいていた子も、回りを見て少しずつ触り始め、終わる頃には帰りがたらないほど楽しんでいました。



からも続けていきたいと思っています。
茨木市
なかよしわんぱく保育園



地域に広がれ 子育て仲間!!



少子化が進むなか、地域の身近な子育ての専門施設として保育所への期待が急速に高まっています。

当園では、地域の子育て支援の一環として、体験保育や育児講座、育児相談を行い、また自主事業で一時保育も実施しています。

7月に行われた「七夕のつどい」で

子育て支援シリーズ⑪ 寝屋川市 桜木保育園



は、地域の親子約50人が参加し、在園児と一緒に七夕の由来についてのお話を聞いたり、天の川などの七夕飾りを笹につけて楽しみました。今回初めて参加し、緊張さ

みだったお母さん方も徐々に慣れ、親同士のつながりも広がったようです。

あるお母さんは「体験保育を楽しみにしています。季節に合ったあそびや歌を通して、親子共々友だちが増えました」とお友だちを誘って来てくれています。

地域には育児の悩みや不安を抱えながらも相談できない親がまだ多くいると考えられます。そのような親を応援するため、現在体験保育などに参加している母親たちの協力も得て、「近所で見かけた親子があれば、誘って一緒に園に遊びに来てくださーい」と呼びかけるなど、保育園からのさらなる働きかけが必要だと思っています。

次回の育児講座「夏のミニコンサート」では、生のフルートとピアノ演奏を予定しています。日頃育児に忙しいお母さんに「ほっと一息」心を癒してもらおう試みです。

地域に根づいた保育園として、今後も様々な方策を考え地域の子育て支援に積極的に取り組んでいきたいと思っています。

寝屋川市 桜木保育園



16年度保育士会総会 ～新たなスタートを誓う～

高まる期待・求められる専門性

平成16年度保育士会総会が、4月22日に大阪社会福祉指導センターで開催されました(参加者209人)。

武内茂子会長の挨拶で始まり、来賓として大阪府健康福祉部児童家庭室長の藤田哲士氏が岸和田、和歌山の虐待事件についてふれられ、問題意識、職員の対応資質の向上、地域の見守りの中での早期発見にご協力をと挨拶されました。

次に、保育部会副部会長森田信司氏が、保育行政について、昨年11月の国家資格化により、子どもたちの保育からファミリー・サポート、地域における子育ての援助と、多様化する子育て支援に対して保育士会への期待と激励の挨拶をされました。

その後、

議事に移り、15年度事業報告と収支決算、16年度事業計画案と収支予算案が満場の

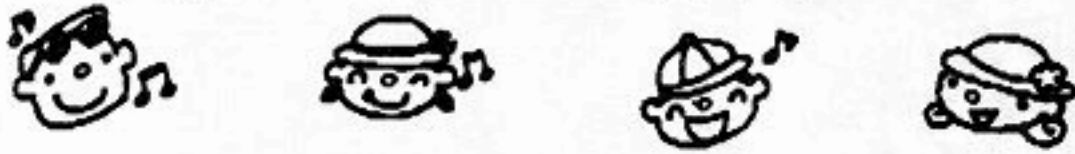
一致で承認されました。最後に、武内会長が「保育の変革を踏まえた保育士の専門性」をテーマに講演しました。「専門職の保育士として何をめざすかという事が一番大事な課題だが、地域社会の中で我々が果たす役割は何なのかをこれから考えていかなければならない。一人一人違う生活環境の中で姿、形も違うお母さんにと話していけばよいのか。保育士一人づつが、お母さんにきちんと伝える



技術をもち、相手の気持ちにくんち話をすることができるとが、人間的性を深め、倫理綱領を守りながら子どもたちのためになる保育士になってほしい」と結びました。

第2部の記念講演は、テノール歌手の加藤ヒロユキ氏をお招きし、すてきな歌とトークの楽しいひとときとなりました。

歌声に心洗われ



いい音楽を幼児期から



執行部の役員の方たち

第二部

「ステキな音楽会」の講師は、テノール歌手の加藤ヒロユキ氏。クラシックからジャズピアノの弾き語りまで幅広い活動をされ、現在毎日放送ラジオで「加藤ヒロユキ音楽のソムリエ」という番組のパーソナリティもつとめていらっしゃる。

そして
イタリアーカンツォーネ
フランスーシャンソン
アメリカーソング
日本ー歌謡

各国の呼び方が違うだけで、みな同じ歌なのだという話に、カンツォーネもシャンソンも急に身近に感じられました。

「花」や「キャッツ」などのミュージカルナンバーに聴きほれ「アメリカー」
「ジンゲグレイス」
には魂をゆさぶられ「一緒に歌いましょう」
の「大きな古時計」では、皆目をキラキラ輝かせ、楽しんで歌っていました。



「今こうやって歌っているのは、幼稚園の時の先生がくれたおかげ」という言葉には思わずうなずいてしまいました。第一部で緊張していた私たちの体に、素晴らしい歌声は気持ちよく響き、美しいピアノの奏でるメロディーとともに夢心地に。

「帰れソレントへの歌」の歌声で始まり、ご自身の幼い頃の思い出をユーモアあふれたトークで展開され、

「今こうやって歌っているのは、幼稚園の時の先生がくれたおかげ」という言葉には思わずうなずいてしまいました。第一部で緊張していた私たちの体に、素晴らしい歌声は気持ちよく響き、美しいピアノの奏でるメロディーとともに夢心地に。

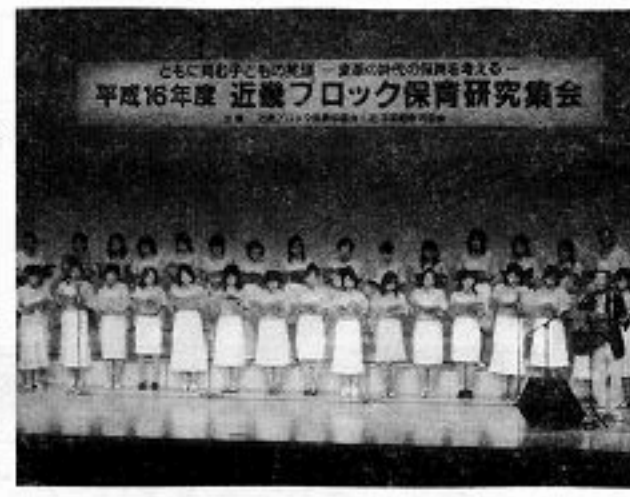
星光保育園 望月まり子

近畿ブロック保育研究集会

二つとも子育てが子どもの笑顔



変革の時代の保育を考へる



園に依頼したアンケート調査の結果をもとに発表を進められました。

異年齢交流の機会は、大人との関係だけでは学びきれないことを数多く体験できる場である。そして子どもが意欲を持って生活すること「生きる力」を育む場であることが調査の結果から理解できた

保育等、保育形態の見直しをくり返し、試行錯誤を重ね現在に至る。

その中で、常に中心に据えてきたことは、子どもたちに必要な「生きる力」を育てるための経験がたくさんできる環境をつくっていかなくてはならないと話されました。

「戦争の語り部として」のテーマで記念講演をいただいた。次回開催地、神戸での再開を確認しあい、二日間の研修会は幕を閉じました。

さに、発達を促す宝庫である。その時のプログラムについては、常にゆとり、幅を持たせた内容であることに配慮が必要である」と閉めくられました。

各分科会は、それぞれのテーマに沿って熱心に話し合いが行われました。

大会二日目は、講師に野中広務先生をお招きして「戦争の語り部として」のテーマで記念講演をいただいた。次回開催地、神戸での再開を確認しあい、二日間の研修会は幕を閉じました。

近畿ブロック保育研究集会は、7月12日、13日京都テルサ・ホテルグランヴィア京都で行われ、全体会と8つの分科会がもたれました。

第一日目の全体会は、京都府保育所職員の歌で幕を開け分科会へと進行。

府保育士会からは、河内ブロック白鳩保育園の今中江美さんから、第5分科会において「3歳以上児（異年齢保育）の現状と保育・子育て支援のあり方」について発題がありました。



発題者の今中江美さん

異年齢保育を始めたきっかけは、昭和59年度、3歳児クラスに障害児が数人かさなり、受け入れ体制を考慮せざるを得なくなり、3歳児4歳児5歳児を異年齢のグループ制にして、子どもたち自身で生活を進めていけるような環境づくりを行ったことに始まる。年齢別保育、異年齢

引き続き第5分科会では、和歌山県から「5歳児の交流保育」について発題があり、その後助言者の柴田直矢、その後の空梅雨の暑さの中、講師も受講者も熱気あふれる研修会となりました。

「保育士の専門性を高める連続研修会」が、7月6日、約200人の主任保育士の出席でスタートしました。空梅雨の暑さの中、講師も受講者も熱気あふれる研修会となりました。

連続研修会始まる 一専門性を高めよう



「これからの保育所に求められないことを話されました。常に研鑽していかねばならないことを話されました。受講してください。

「保育士の専門性を高める連続研修会」が、7月6日、約200人の主任保育士の出席でスタートしました。空梅雨の暑さの中、講師も受講者も熱気あふれる研修会となりました。

まず、藤田哲士大阪府健康福祉部児童家庭室長が、「これからの保育所に求められないことを話されました。常に研鑽していかねばならないことを話されました。受講してください。

保育士手帳（新）「ほほえみ」次のように2カ所の訂正をお願いします。

5) 意欲ある職場とは (11ページ)

- お互いに思いやりのところを持ち、相手の意見を聴く耳を持ちましょう。
- 相手の意見、意思を尊重し、自分の意見、意思の言える職場をつくりましょう。

社会福祉協議会 TEL 06-6762-9001 (最終ページ)

トピックス

全国保育士研究大会が、10月20日から22日まで山口県で開催されます。府保育士会からは、堺ブロックみどり幼稚園が、第2分科会「遊びを通して総合的に行う保育」(3歳未満児)について、「子どもが主体的に集中できる保育をめざして」-身近な素材に関わって遊ぶことにより-と題して、保育の実践研究発表をされます。多数の方の参加をお願いします。

東大阪市の私立保育園各

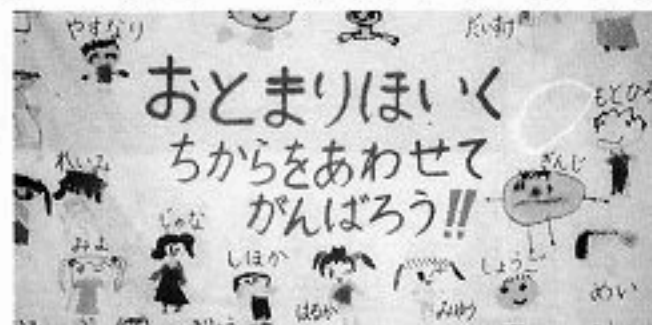
たのしい保育活動

お泊まり保育

当園は西本願寺堺別院に隣接し、桜や銀杏の木に囲まれた中で、子どもたちは元気一杯過ごしています。毎年7月の第一週の土・日に、年長組の行事として園内でお泊り保育を行っています。

午後からはおやつを買いに行ったり、プール遊びをして過ごし、夕食は午前中に切った野菜で作ってもらったカレーライス。いつも少食の子どもまでおかわりをする状態で、びっくりさせられます。その後は、待ち待ったキャンプファイヤー。そして暗くなった本堂までパズルをもらいに各グループで行きます。ちよっぴりドキドキの子どもたちですが、パズルの完成は全員もらってきてもうらやましいです。夜は安全のため、保育士が交替で警備につきます。

まず朝一番に年長組全員で本堂へ。2日間みんな力を合わせて頑張ることを知らせにお参りに行きます。午前中は夕食準備で、包丁を使って野菜切りに初挑戦。前もって家庭で練習はしていたのですが、なかなか思ったとおりにはいかず、保育士の話を聞きながら、いつになく慎重な子どもたちです。0-157が出るまでは、バーベキューコンロと炭で保育士と一緒に最後まで作りあげていました。その頃の生き生きとした子どもたちの姿を思い出すと、させてあげたいのが正直な気持ちです。



翌日は7時起床で、報告も兼ねて本堂へお参りに行き、眠い目をこすりながらもお経や話をしっかり聞かれています。朝食後のお迎えで終了となります。翌日、登園してくると「せんせい楽しかったね」「もう1回したいなあ」と、良い思い出になったよ

うです。これからも、子どもたちに負担のかからないよう、普段経験できない事を取り入れながら、充実した楽しいお泊り保育にしていきたいと思っています。

龍谷保育園 梅谷貴子



保育士さんたち、がんばりな

おおきな「手」

ちいさな「手」

異年齢保育を通して



「先生、トントン隊に行ってきたー」昼食が終わると元気よく出て行く年長組の子どもたち。小さい子の面倒を見てあげたいという思いからできたトントン隊は、1・2歳児の背中をトントンと優しく叩き、寝かせてあげるところからついた名前です。21年も続いていきます。活動を通してお互いに親しみがわき、優しさや年長児としての自覚が生まれてきました。

年長児だけでなく折に触れおこなってききましたが、今年度から、交流を目的とする保育ではなく、個性をより生かし、子ども自身がグループの中で受け身ではなく、意欲的に活動できるといふねらいを持ち異年齢児交流でない異



年齢児保育を始めました。最初の頃は、子どもたちが主体となった活動を取り入れたらいいと思いつつも、保育士が遊びを提供してしまいがちで、子どもたちは与えられた遊びを楽しむだけに終わっていました。当初のねらいを達成するために会議や研修を重ね、今の子どもたちの問題となっていることは何かを考え、この問題をこれからはどうしていけばいいのかを話し合いながら進めています。

2・4歳児の子どもが1グループ15人、保育士が2人、ゆとりのある環境の中で週2日、朝から昼食まで一緒に過ごします。トイレや持ち物移動など、色々問題点はありますが「ゆとり」という大きな味方があるため、年齢別のクラスとは違って、個々の姿をしっかりと見ることができそうです。生活・遊びを流すのではなく、個々の特性を生かし、より一層高められるようにこれからも、模索しながら単なる交流ではない異年齢児保育を進めていきたいと思っています。

大野台保育園 森 俊子

編集後記



猛暑の続く日々、雨の少なかった梅雨が明けたかと思うと、新潟県と福井県を襲った集中豪雨、災害にあわれた皆様にはお慰めの言葉もありません。本当に悲しい、むごい、痛ましい天災でした。一日も早い復旧をお祈り申し上げます。

私たちも、いつこのような災害に、見まわれるかということも考慮の上、多方面で予防策を考えなければならぬと思います。

まずはこの夏、子どもたちを事件、事故から守り、家族そろって楽しい夏が、過ごせますことを願うところからです。